

# グリーンインフラの輪をさらに大きくするために



- 仲間をふやす
  - 森、田畑、海の仲間
  - グリーンインフラ大賞にすでに輪の広がり
- 社会資本整備の中で
  - 評価　グリーンインフラのLCA
    - 多様な機能・価値の評価と共感・支持・連携・協働
  - 認証と調達・投資の加速
- グリーン、ブルーに加えてホワイトカーボンも

# グリーンインフラ研究会の発足と活動

**発足年**  
2015年7月

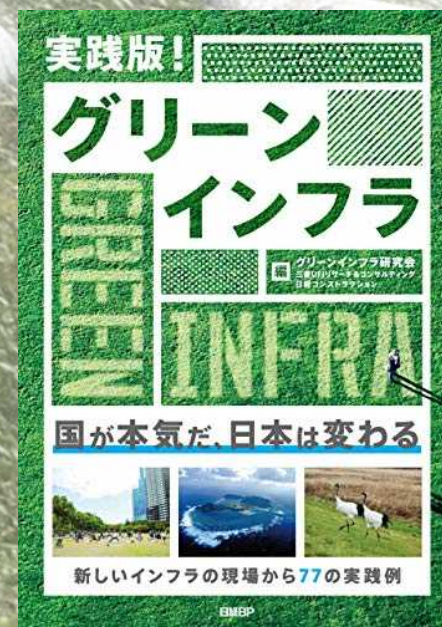
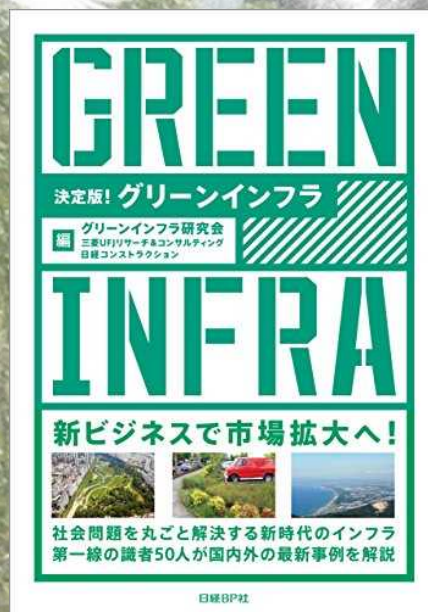
## 組織・体制

運営委員長: 中村太士(北海道大学)

運営委員: 西田貴明(京都産業大学)、西廣淳(国立環境研究所)、吉田丈人(総合地球環境学研究所・東京大学)、福岡孝則(東京農業大学)、幸福智(いであ)、小笠原奨悟(パシフィックコンサルタンツ)ほか

**主な活動**  
勉強会  
セミナー

**主な実績**  
2冊の本を出版



持続可能で魅力ある国土・都市・地域づくりに向けて

# グリーンインフラ産業展 2023

2023年2月1日(水)～3日(金)  
東京ビッグサイト・南ホール

主催 日刊工業新聞社 共催 グリーンインフラ官民連携プラットフォーム

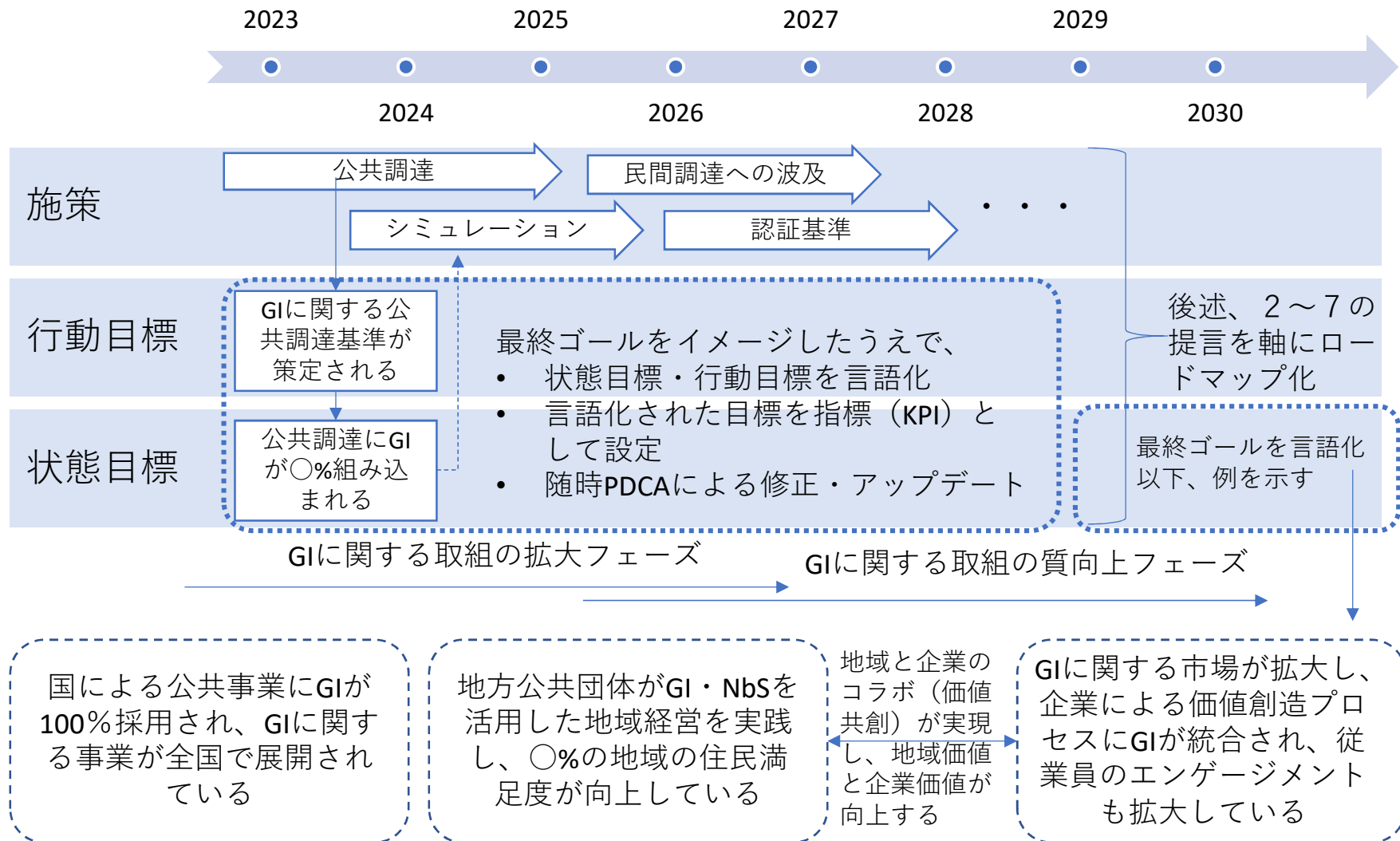
出展締切  
2022年9月30日(金)

## グリーンインフラ官民連携プラットフォーム シンポジウム・ブース展示企画

### 課題共有の必要性

# 1. GIの社会実装に向けた中期的なロードマップを作成する

5～10年を目処としたGIの社会実装の具体的な目標(KPI:重要業績評価指標など)を設定し、GIを国や地方公共団体の政策、企業や地域経営の中核に位置付ける。



## 2. 気候変動対策と生物多様性保全を両立できるアプローチを推進する

生態系による炭素吸収・貯留など、脱炭素におけるGIの重要な役割を改めて認識し、気候変動対策と生物多様性保全を同時に達成できるアプローチを推進する。

近年、脱炭素と自然環境保全のコンフリクトが顕在化。  
再エネへの急速な転換などにより、  
将来の資源である地下水・自然地・農業適地の損失が進行。  
両立できるソリューションが必要。



### 気候変動対策と自然資源保全を両立させる自然活用（GI）の選択肢

#### 生態系保全と炭素蓄積

たとえば・・・

- ⇒泥炭湿地は地球の3%に過ぎないが陸上全体の炭素の30%を蓄積。
- ⇒湿地の乾燥化を止める方策は、生物多様性保全と炭素蓄積の両面に有効。



#### 自然再生と炭素隔離

たとえば・・・

- ⇒過剰に繁茂した植物の伐採は生物多様性保全に貢献。
- ⇒里山管理で発生した植物のバイオ炭化により、Jクレジット取引も可能な炭素隔離が実現。



#### 適切に保全・管理された生態系

防災・暑熱緩和などの機能を発揮（気候変動適応）  
水・土壌・生物などの自然資源を保全

グリーンインフラは、

⇒ 気候変動緩和（脱炭素）／気候変動適応／生物多様性保全の同時実現に有効  
「2050カーボンニュートラル」と「30by30」の両方の達成に有効

### 3. 公共事業・公共調達においてGIの取組を推進し、日本の成長戦略につなげる

公共事業の仕様書や調達基準、計画設計基準、新技術評価等にGIの考え方を積極的に導入し、行政の事業を基点として社会におけるGIの主流化を促す。

#### 【公共事業・公共調達において、GIを率先して採用（以下、例）】

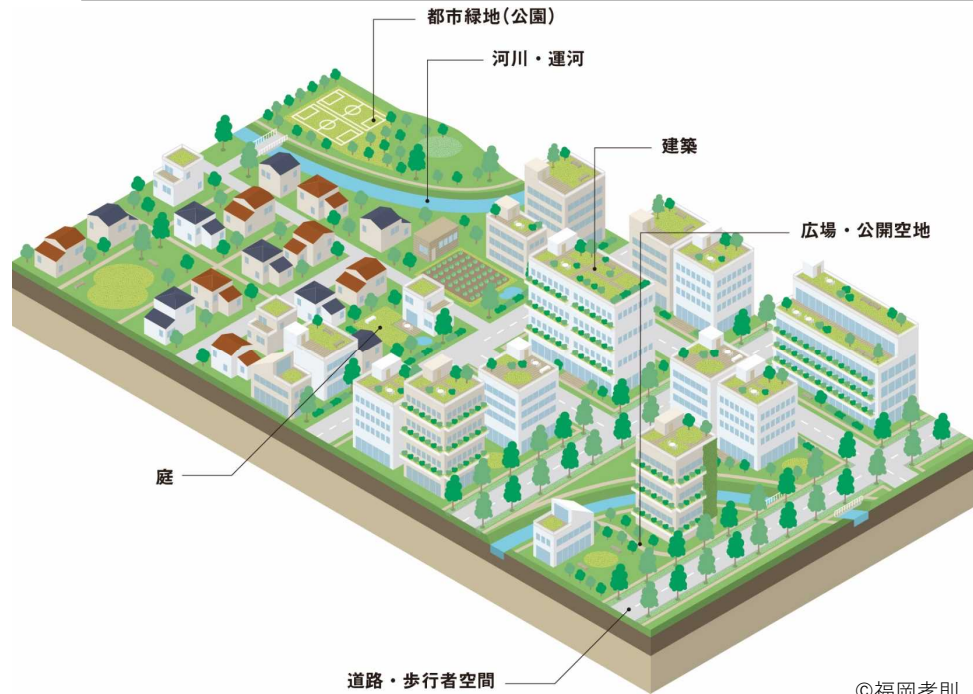
- 公共事業の共通仕様書にGI等の活用を組み込む
- 公共事業のうち、企画競争の採点基準（加点要素）にGIを採用し、優遇や優先的調達をはかる
- GIに積極的に推進する企業を認定し、企画競争における優遇措置（加点要素）を設ける
- 質の高いGIに関する技術に対する評価システムを設け、民間事業者のGIに関する積極的な投資を促進する

民需への波及、  
ドミノ

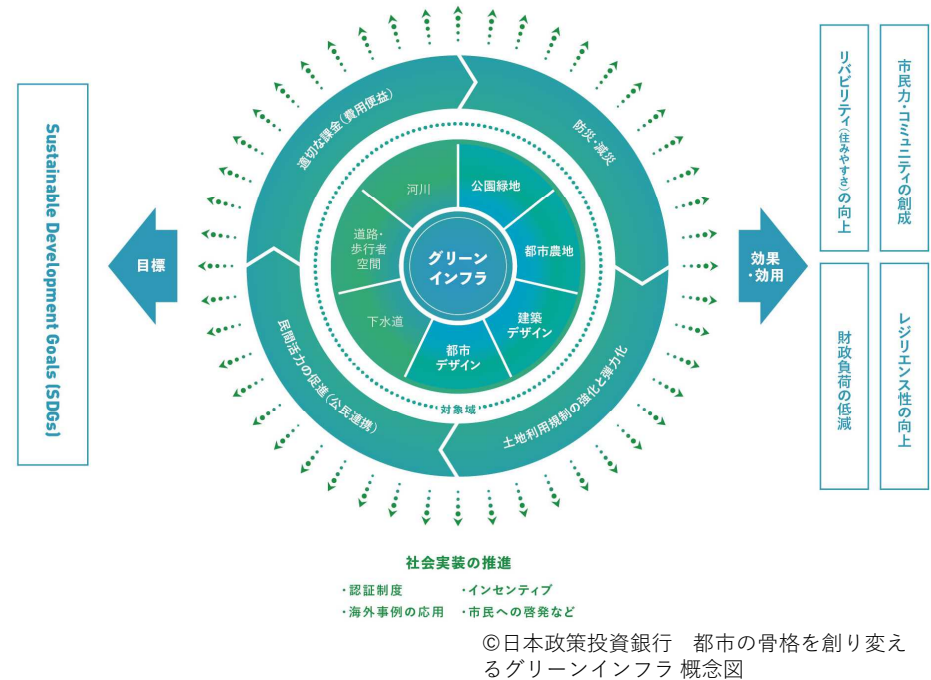
民間企業のGIビジネス・市場の拡大

## 4. 民間企業のGIビジネス・市場を拡大させる仕組みを強化する

都市再生、都市公園や河川、公共施設等における官民連携事業でのGIの推進、企業や団体等によるGIの事業および技術開発の支援、先導的なGI推進のモデル地域の設定などを進める。



©福岡孝則



### 先導的なGI推進モデル地域の設定 (街区スケール以上、複数のGI事業の組み合わせ)



## 5. GIの取組の推進と機能向上のための認証制度を設ける

GIがもつ多様な機能のポテンシャルが確保され、多様性や包摂性などへの配慮がなされた上で、実際に暮らしや社会経済にそれらの機能が活かされることが、公正に評価される認証制度を創設する。

### 認証評価例

### 認証カテゴリー・基準の設定（例）



環境			健康		社会		経済									
洪水低減	下水道処理の減少	水質浄化	地下水涵養	大気質改善、二酸化炭素吸収	生物の生息地創出	ヒートアイランド現象の緩和	ストレスの低下	運動機会の増加	熱中症の低下	景観向上	公衆安全	教育機会の場の提供	コミュニティの結束	労働・ビジネス開発	土地価格の向上	投機機会の向上

効果確実性  
配慮事項

実現性・管理特性など  
ジェンダー・若者など

#### 総合評価



多機能性



効果確実性



配慮事項



#### 総合評価



多機能性



効果確実性



配慮事項



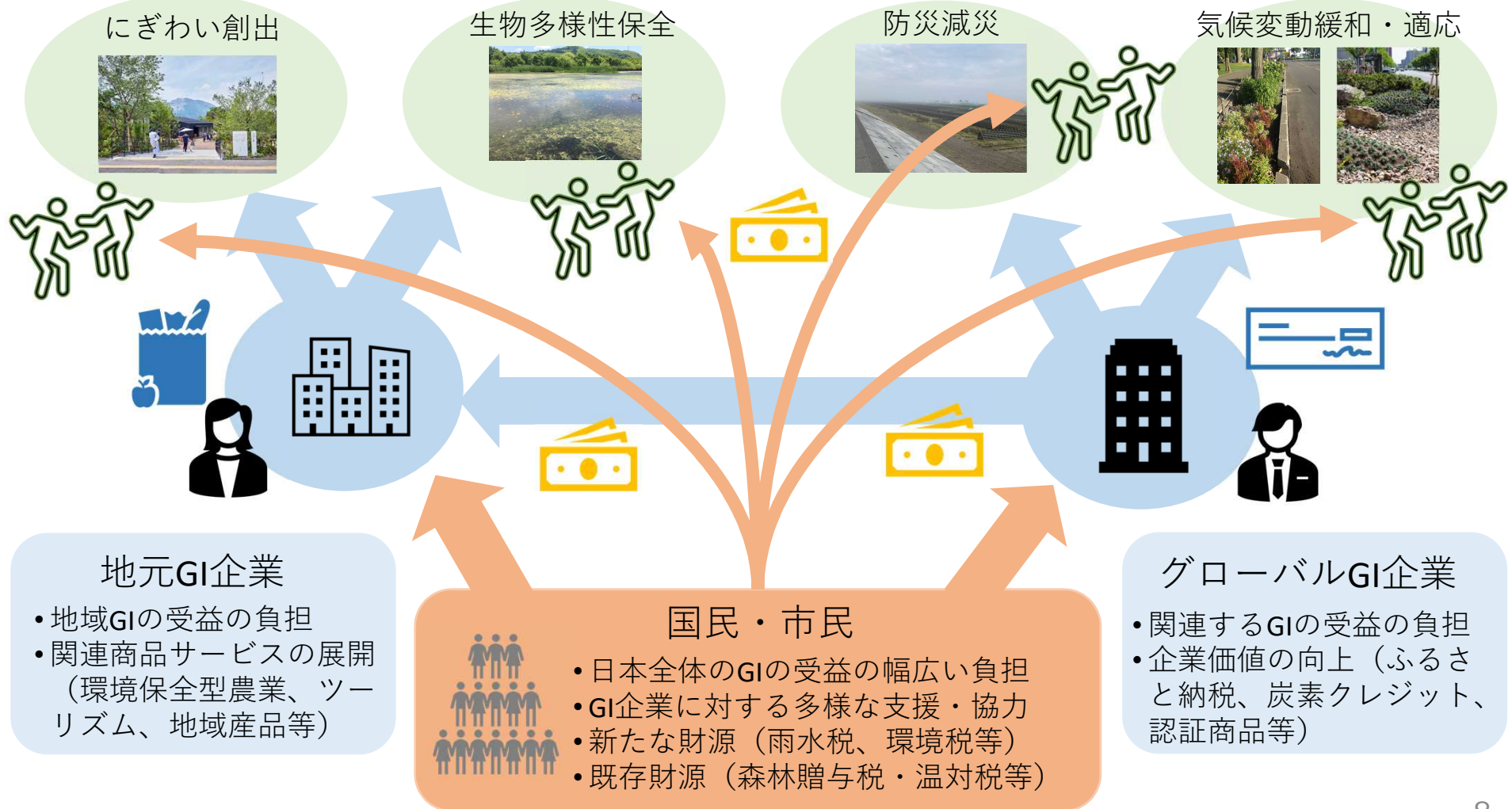
施策評価・  
投資への活用



## 6. GIの推進を支える財源と人材を確保する

GIに関連する税制度など、様々な手法によるGIの財源確保、GIを推進する多様な人材の育成を進める。

グリーンインフラ関連施設の整備・利活用と、それらの人材育成



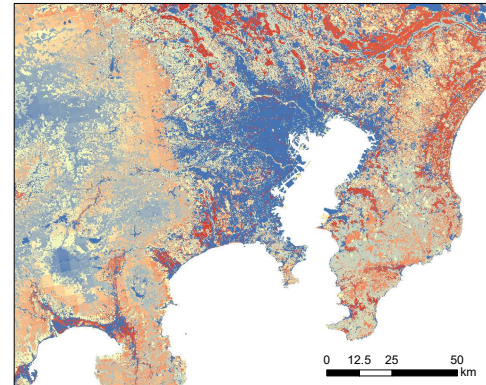
## 7. 次世代インフラであるGIの情報基盤整備・シミュレーションシステムを構築する

既存の伝統的GIの保全と新たなGIの整備のため、GIの機能や効果を可視化しモニタリングする情報基盤や、地域のシミュレーションシステムを構築する。

伝統的GI・新規GIの多機能評価



多機能性データベース・  
可視化プラットフォーム



地図による可視化



AI画像による可視化



将来シナリオ・シミュレーション